

研究課題名	潰瘍性大腸炎患者に発生した腫瘍の生検検体を用いた遺伝子学的特徴に関する研究
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科消化器内科学 教授 岡 志郎
研究期間	実施許可日～2025年3月31日
対象者	1999年8月から2022年12月の間に、広島大学病院で大腸内視鏡検査を受けられた潰瘍性大腸炎患者さんの中で、大腸腫瘍に対して生検後に内視鏡的・外科的に切除を施行され、かつ病理固定標本から遺伝子解析が可能であった患者さん。
意義・目的	潰瘍性大腸炎は原因不明の大腸炎を起こす難病ですが、長期罹患例では大腸癌を合併するリスクが高いことが知られています。潰瘍性大腸炎患者において大腸癌は生命予後を規定する重要な合併症であり、潰瘍性大腸炎関連腫瘍の早期の診断・治療等の管理が重要です。潰瘍性大腸炎関連腫瘍は潰瘍性大腸炎患者に発生する散発性大腸腫瘍との鑑別が臨床的・内視鏡的・病理学的にも困難とされており、治療方針の選択に難渋する例も少なくありません。潰瘍性大腸炎粘膜に発生した腫瘍について、生検検体からの遺伝子学的評価により両者の鑑別が可能となれば、治療方針の決定に役立つことが予測されます。
方法	<p>本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。カルテから使用する内容は性別、年齢、身長、体重、内視鏡検査所見、病理組織所見等です。</p> <p>また、遺伝子学的特徴で変異遺伝子（APC、TP53、KRAS、PRKDC、CSMD3、CREBBP、KIF26B、LTBP4、EP300、ATM、TCF7L2、NWD1、ACVR1B、BRAF、RNF43、SMAD2、ZNF536、IL16、IL17RD、FBXW7、NRG1、MAP2K3、TPO、TGFB2、MDM2、PIK3CA、SOX9）を解析・評価します。</p> <p>「病理標本の教育・研究利用についてのお願い」により、同意を得て保存されている検体を用い、必要量提供を受け、検体よりDNAを抽出し、消化管研究室で遺伝子変異の解析を行います。余分となった検体は病理検査室にて再度保存します。（個人を特定可能な情報は解析に用いませぬ）</p>
共同研究機関	なし
試料・情報の管理責任者	広島大学大学院医系科学研究科消化器内科学 教授 岡 志郎
個人情報保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずる</p>

ことはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には、提供していただいた情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人を識別できる情報は含まれません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5939

広島大学大学院医系科学研究科(医学)消化器内科学 教授 岡 志郎